

**宮城県保健福祉部医療政策課 地域医療第二班 主査 羽柴 功子**

御支援を頂いております「石巻市夜間急患センター」は、東日本大震災により被災し、仮設診療所での診療を続けて参りましたが、昨年12月に石巻赤十字病院敷地内に移設され、新しい急患センターでの診療が開始されました。少しずつですが、着実に復興が進んでいることを日々実感しています。



宮城県に御支援を頂くようになってから4年以上経ちますが、全国各地から「石巻のために」と、大勢の先生方にお越しいただいています。平成29年5月末までに延べ180回以上の御支援を賜りました。診療にお越しいただいた先生方、そして本事業関係者の皆様の御尽力に感謝申し上げます。

今後とも皆様からの御支援を賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

2017.7.13

**宮城県保健福祉部医療整備課地域医療第二班 主事 熊倉光**

今年7月から事務局の宮城県担当をしている熊倉です。

ご挨拶が遅くなりましたことをお詫びいたします。

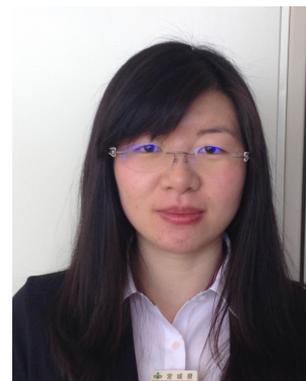
まず始めに、日頃ご支援いただいている先生方に心から感謝申し上げます。また、この支援の枠組みを築いてくださった日本小児救急医学会の先生方や、相談や実務を行っている東北大学小児科医局の先生方にも、この場を借りて感謝申し上げます。



さて、宮城県内では平成25年2月から石巻市夜間急患センターで小児科の診療に支援をいただいております。当センターは、地域で唯一の夜間の初期救急を担っており、欠かすことのできない医療機関です。毎週土曜日の夜から日曜日の朝までの診療に、これまで延べ150以上にわたる支援をいただきました。震災から5年以上が経過した今でも、支援くださる皆様のおかげで半年先の日程まで予約で埋まっている状況です。今後とも皆様からの温かいご支援を“ほそくながく”賜りますようお願い申し上げます。

2016.8.19

宮城県保健福祉部医療整備課 地域医療第一班 主事 源間 智子



宮城県では、石巻市夜間急患センターの土曜日の当直について受け入れを行っておりますが、当事務局の開設から平成28年2月までに全国各地から30名以上の先生からの御支援をいただきました。中には何度もおいでいただいている先生も多くいらっしゃいます。震災から5年が経つ今も継続的に御支援を受けられているのは、応援に来ていただいている先生方と本事業関係者の皆さまの御尽力のおかげです。

本県では、仮設で運営していた一部の医療施設が再開されるなど復旧が進められておりますが、今なお、多くの方々が仮設住宅等での不便な生活を余儀なくされるなど、依然として復興の途上にあります。

引き続き皆さまからお力をいただきながら、地域医療提供体制の復興を推進していく必要があると考えておりますので、今後とも御支援をよろしくお願いいたします。

震災5年目宮城県コメント 2016.3.11

平成28年4月1日より担当になりました。

宮城県保健福祉部医療整備課の源間智子と申します。

震災から5年が経った今も石巻夜間急患センターへ支援の手を差し伸べていただけるのは全国各地からご支援をいただいている先生方、本事業関係者の皆様のおかげです。いつもありがとうございます。至らぬ点が多い身ですが“ほそくながく”の理念に少しでもお手伝いできるような進じてまいります。これからよろしくお願いいたします。

2016.4.1

宮城県保健福祉部医療整備課 地域医療班 主事  
菅原 奈美



小児科医師の皆様

被災3県へのご支援ありがとうございます。

宮城県へは石巻市夜間急患センターで土曜日の夜間小児救急診療をご支援いただいております。

おかげさまでご支援をいただいてから今年の2月で1年が経過しました。ご支援にきていただいている先生方、また各小児科関連学会の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

昨シーズンの冬は76年ぶりの大雪が降ったりと降雪量が多い年で、交通機関が大丈夫かと心配することが何回かありました。先生方は早めにくたり、移動手段もいろいろ工夫なさってお帰りになったとお聞きして、先生方の責任感、使命感の大きさに心打たれますとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

4月に入って暖かくなりほっとしております。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

2014.7.12

**宮城県保健福祉部 医療整備課兼障害福祉課 医療政策専門監  
大久保 久美子**

一昨年に発生した東日本大震災では、県内各地の医療機関が甚大な被害を受け、特に沿岸部では、津波により小児医療機関を含む多くの医療機関が被災しました。その中で、石巻地域は被害が最も大きく、今回御支援をお願いする石巻夜間急患センターも被災し、現在、仮設診療所において小児夜間救急医療を担っております。

本県では、一定程度の地域医療復興は進んできておりますが、依然として全国の医師の皆様の御支援が必要な状況にあります。すでに診療支援いただいた先生からは、“仮設住宅在住の市民がまだまだ多い状況や復興が途上であることを肌で実感した”という感想もいただいております。被災された方々が少しでも安心できる生活を取り戻すため、小児科医師の皆様のお力をお貸しくさせていただきますよう、御応募をお待ちしております。



2013.4.26